

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	熊本学園大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クマモトガクエンダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F143310111326
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	熊本県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	商学部 商学科
	担当教職員名・役職	杉本 学：准教授、池上 恭子：教授、岩間 世界：准教授、山田 美幸：講師、吉永 心一：講師、嶋田 文広：講師、教務課職員
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	20
	受入企業等数	15
	受入企業等名	玉名市役所、井手税理士・総合会計事務所、(株)せいじつ会計、(株)大成経営開発、(株)熊本日日新聞社、(株)地域経済センター、(株)ゆうプランニング、(株)九州永田、(株)システムビート、熊本県社会保険労務士会、熊本バスケットボール(株)、(株)肥後銀行、日本貿易振興機構(ジェトロ)熊本貿易情報センター
	インターンシップの分類	10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	事務補助や訪問先への同行、窓口対応、企画書の作成等、実際に行われている業務を体験している。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
		9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	当該インターンシップは、自己能力開発科目として実施している。
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年	
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	

	2-5.上記回答内容に関する詳細	3年次を対象に自己能力開発科目「インターンシップ」として、夏期休業中の原則5日間インターンシップを実施している。単位認定は2単位である。将来の職業選択を念頭に、企業等での就業体験を通して自らにふさわしい仕事とはどんなものなのかを考え、同時に実社会に身を置くこととして、社会人としての行動様式と実践的知識を獲得することを目指している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	教員が自分の担当する学生の事前訪問後、インターンシップ期間中、インターンシップ期間後のいずれかまたは全てにおいて学生に連絡を取り状況把握を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全6回の事前学習の中で、インターンシップ受講上の注意（第1回）、インターンシップの意義・目的等の講義、受入先の調査レポート提出（第2回）、自己表現の仕方、履歴書・自己紹介書の書き方指導(第3回)、マナー講座(第4回、第5回)、ビジネス・マナー講座のまとめ（第6回）を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	学生がインターンシップに関する報告書をまとめて大学に提出する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ終了までにおいては、教員が自分の担当する学生の事前訪問後、インターンシップ期間中、インターンシップ期間後のいずれかあるいは全てにおいて学生に連絡を取り状況把握を行っている。インターンシップ終了後においては、学生にインターンシップの日報や研修報告書の提出を求めることによって、各々の学生のモニタリングに努めている。
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	

④	4-3.上記回答内容に関する詳細	実施前には受入先の事業内容、インターンシップを通じて学びたいこと等をまとめた調査レポートの作成、実施中にはインターンシップ研修記録の作成、実施後にはインターンシップに関する報告書の作成を行い、インターンシップの成果や反省点等について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間原則5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施期間5日間以上(うちインターンシップ実施期間1日以上)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	官公庁、地元企業等で、原則として5日間のインターンシップを行っている。受入先の事情により5日間が確保できない場合にも、事前・事後学習と合わせて5日以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	大学が事前に受入先に学生・大学への要望等を伺い、学生は事前訪問で具体的なインターンシップの内容等について受入先担当者と打ち合わせを行っている。インターンシップ後、受入先は大学作成の評価表を用いて学生に対する評価を行い、教員は受入先を訪問し、担当者にインターンシップの様子について話を伺っている。また、代表学生の報告書をまとめた冊子を受入先に送付している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://kyomu.kumagaku.ac.jp/">https://kyomu.kumagaku.ac.jp/</a>
問い合わせ先	大学等名	熊本学園大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	木村 桂
	電話番号	096-364-5161
	メールアドレス	<a href="mailto:jnews@kumagaku.ac.jp">jnews@kumagaku.ac.jp</a>